

# 仙台空港が全面復旧

## ソウル線定期便再開

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた仙台空港は25日、空港機能が全面復旧し、震災後初の国際定期便となるアジアナ航空ソウル線が運航を再開した。

（14・23面に関連記事）  
空港ターミナルビル2階の国際線出発ロビーでは、完全復旧を祝う式典が開かれた。出席者全員

が震災の犠牲者に黙とうをささげた後、くす玉を割るなどして空港の再出発を祝った。  
出席した前田武志国土交通相は「仙台空港は不

死鳥のようによみがえった。（全面復旧は）立ち上がる東北の象徴として国民の目に映るはずだ」と述べた。  
村井嘉浩宮城県知事は

「仙台空港の復興に向けた着実な歩みは人の交流、物流の活発化につながり、宮城のみならず、東北全体の復興に寄与できる」と期待を語った。  
再開した国際定期便の1番機となったアジアナ機は、ほぼ定刻の午後0時31分に着陸。乗客らはビル1階の到着ロビーで地元関係者の歓迎を受けた。ソウル行き便は午後1時41分に離陸した。

このほかの国際定期便は米大手ユナイテッド航空のグアム線が10月2日に再開。台湾のエバー航空、中国国際航空もそれぞれ路線復活を表明している。  
仙台空港は津波で滑走路とターミナルビル1階が水没し、機能が完全に停止した。がれきは約1



くす玉を割り、空港の全面復旧と国際定期便再開を祝う関係者—25日、仙台空港

カ月で取り除かれ、国内臨時便が4月13日に就航。7月25日にはビル2階の部分復旧に伴い、国内定期便が復活した。